

聖書の預言の解釈には①過去主義、②未来主義、③理想主義、④歴史主義などの解釈があります。宗教改革の時代の改革者たち（カトリック教会に抗議をした、プロテスタントと呼ばれた人々）は、歴史主義の立場をとっていました（SDA教会もこの立場です）。歴史主義は、過去の歴史が現在に継続してつながっている事を認めて、さらに将来にも漸進的に（少しずつ）進んでいくという考え方です。

歴史主義と預言

SDAが預言に用いる基本的手法は歴史主義です。それは、聖書の主要な預言の多くが、歴史の切れ目のない直線的な流れを過去から現在、現在から未来へたどっているという考えです。私たちがこの手法で研究を行うのは、聖書そのものがこの手法によってこれらの預言を解釈しているからです。

聖書にある歴史主義の例としてダニエル書2章のネブカドネツアル王の巨像の夢があります。ここに登場する国々は巨像の体の頭からつま先までの各部分で構成されていて、連続してつながっているのです。ダニエル書7章「四頭の獣の幻」と8章「雄羊と雄山羊の幻」では、ダニエル書2章の4つの連続した国が特定の獣の象徴であらわされ、次々と途切れずに続いています。これらは、過去（大昔）に始まり、現在に、そして未来のキリストの再臨と神様の永遠の王国へとつながっていきます。

また、神様はもちろんのこと、イエス様も「事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話（→預言）しておく」（ヨハネ 14：29）と言われました。預言の機能（働き）は、預言がその通りに成就する事で、預言を語ったイエス様（神様）を信じるようになるためなのです。

→列王記下 17：23

主はついにその僕であるすべての預言者を通してお告げになっていたとおおり、イスラエルを御前から退けられた。イスラエルはその土地からアッシリアに移され、今日に至っている。

→アモス書 3：7

まことに、主なる神はその定められたことを／僕なる預言者に示さずには／何事もなされない。

参考：聖書研究ガイド 第11課「聖書と預言」2020年6月13日

【参考】新約聖書に登場する「預言者を通して」

| タイトル(書名) | 章:節 聖句 [検索対象総数：5 / 聖句等の総数 33250 <預言者を通して>5個] | 聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：預言者を通して] |
|--------------|--|---|
| S マタイによる福音書 | 1:22 このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。 | |
| S マタイによる福音書 | 2:15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。それは、「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」と、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。 | |
| S マタイによる福音書 | 13:35 それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。「わたしは口を開いてたとえを用い、／天地創造の時から隠されていたことを告げる。」 | |
| S マタイによる福音書 | 21:4 それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。 | |
| S ローマの信徒への手紙 | 1:2 この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、 | |